



文部科学省科学技術振興調整費

「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」 平成 20 年度 研究成果報告会

日時：2009年3月13日（金）10：00～16：30

場所：コクヨホール（東京都港区港南 1-8-35） 定員 300 名

プログラム：

10：00～10：45 概要説明

自然共生度アセスメントの枠組み

研究代表者 辻本哲郎 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻

10：45～11：30 口頭発表 その1

① 伊勢湾流域圏の環境変遷と施策展開

藤田光一 国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部

② 沿岸域における生態系の機能とサービスの評価方法

桑原久実（独）水産総合研究センター水産工学研究所環境分析室

11：45～13：45 ポスター発表＋昼食（運営委員会を同時開催）

14：00～15：00 口頭発表 その2

③ 『業』の視点からの生態系サービス評価モデル整備について

村上正吾（独）国立環境研究所アジア自然共生研究グループ

④ 農業水利システムの運用による環境修復

樽屋啓之（独）農研機構農村工学研究所施設資源部

⑤ 棲み場特性と物質動態が豊川の生物に与える影響

天野邦彦（独）土木研究所水環境研究グループ

⑥ 伊勢湾流入河川における水・物質動態と生態系サービス

戸田祐嗣 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻

15：00～15：15 休憩

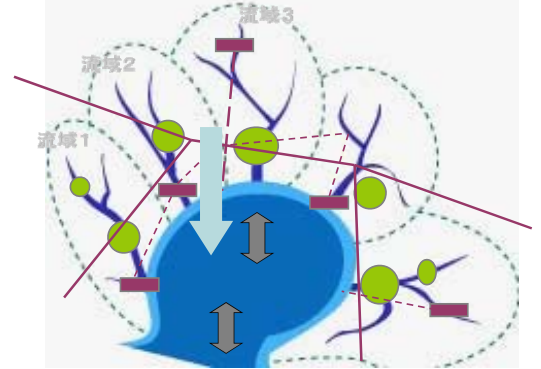
15：15～15：30 運営委員会の報告

15：30～16：30 総合討論

* 発表内容の詳細は裏面記載の URL をご覧ください

○アカデミック・アドバイザー：太田猛彦（東京農業大学地域環境科学部），奥野信宏（中京大学大学院経済学研究科），須藤隆一（NPO 法人環境生態工学研究所），関口秀夫（三重大学大学院生物資源学研究科），中川博次（立命館大学理工学部），三野徹（鳥取環境大学環境マネジメント学科），虫明功臣（福島大学理工学群共生システム理工学類） ○行政アドバイザー：尾川毅（環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室），工藤敏光（東海農政局整備部水資源課），高橋洋一（国土交通省中部地方整備局河川部），野原弘彦（農林水産省農村振興局整備部水資源課），森岡泰裕（国土交通省河川局河川環境課流域治水室） 以上、五十音順 敬称略

流域＝複数流域の集合体



* 事前申し込み（氏名・所属を下記 E-mail または Fax 宛にご送信ください）、もしくは当日受付

* 問い合わせ先：名古屋大学「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」プロジェクト事務局

〒464-8603 名古屋市千種区不老町工学部 9 号館

Tel: 052-789-4628 Fax: 052-789-3727

E-mail: administrator@errp.jp

URL: <http://www.errp.jp/>

* 会場へのアクセス：

KOKUYO HALL

JR

2

Tel: 03-3450-3712

URL <http://www.kokuyo.co.jp/showroom/hall/>



【口頭発表の概要】

① 伊勢湾流域圏の環境変遷と施策展開

発表者：藤田光一 国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部環境研究官

内容：伊勢湾流域圏の過去からの変遷（流域場・物質排出量・水循環系・海域・施策展開）を把握し、既往の生態系サービスの事例検討から、伊勢湾流域圏への施策展開の方向性を述べる。

② 沿岸域における生態系の機能とサービスの評価方法

発表者：桑原久実（独）水産工学研究所水産土木工学部環境分析研究室室長

内容：陸域から海域の間にある沿岸域は、生物生産の豊かな場である。この沿岸域において、アサリを中心とした生物の機能やこの機能によってもたらされるサービスの評価方法について報告する

③ 『業』の視点からの生態系サービス評価モデル整備について

発表者：村上正吾（独）国立環境研究所アジア自然共生研究グループ副グループ長

内容：分かり易い生態系サービスの代表例として、木材、食料、海産資源の供給サービスを取り上げ、国立環境研究所のポスター発表の背景となっている流域・地域の持続性に繋げるための生態系機能評価モデルの考え方の概要を述べる。

④ 農業水利システムの運用による環境修復技術

発表者：樽屋啓之（独）農研機構農村工学研究所施設資源部水路工水理研究室室長

内容：農業水利システムを構成している水田や水路、ため池などに代表される水利施設の適切な運用による流域の環境修復手法を提案し、濁水対策や生物生息環境改善対策の効果と有効性を示す。

⑤ 棲み場特性と物質動態が豊川の生物に与える影響

発表者：天野邦彦（独）土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム上席研究員

内容：豊川を対象に実施してきた調査について概要を述べる。生物分布には、棲み場としてみた河川の物理環境や有機物や栄養塩類といった河川を流下する物質動態が影響している。棲み場特性として河床に着目し、上中流部においては、水生昆虫、下流部においては貝類との関連性について議論を行う。また河川周辺の水路網が回遊性の甲殻類に与える影響について議論を行う。また、有機物の安定同位体比解析結果に基づき、生物への影響について議論する。

⑥ 伊勢湾流入河川における水・物質動態と生態系サービス

発表者：戸田祐嗣 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻准教授

内容：河川域における生態系サービス評価を行うために、河道を山地河川、扇状地礫河川、砂河川、感潮域河川といったセグメントレベルの類型景観に分類し、各類型景観における水・物質動態機構の解明を通じて、生態系サービス評価を行う手法を提案する。

【ポスター発表のタイトル一覧】

- 伊勢湾流域圏における施肥および石けん・洗剤使用に関わる窒素・リンの流出に関する検討（藤田光一、望月貴文、菊池佐智子：国総研）
- 既往の生態系サービス評価手法の事例収集と、伊勢湾流域圏への適用の試み（藤田光一、望月貴文、菊池佐智子：国総研）
- 三河湾流域をモデルとした物質循環管理方策の提案事例（岸田弘之、藤田光一、望月貴文：国総研）

- 伊勢湾における流動・水質の長期変動傾向と気温・風速の経年変化の関係（東博紀：国環研）
- 伊勢湾における干潟及び沿岸植生の生態系機能の見積もり（野原精一・井上智美・広木幹也：国環研）
- 二枚貝の水質浄化能からみた環境修復技術とその評価法について（樋渡武彦：国環研）
- 干潟の地形変化とアサリ等二枚貝の分布の応答について（南部亮元：水工研）
- 伊勢湾アサリ漁場における貧酸素の調査結果（日向野純也：養殖研）
- 伊勢湾におけるアサリ浮遊幼生の広域分布（長谷川夏樹：養殖研）
- 支柱式ノリ網敷設によるアサリ稚貝の定着促進技術の開発（水野知巳：三重県）

- 伊勢湾流域圏における人間活動に伴う栄養塩収支の変遷（水落元之：国環研）
- 伊勢湾流域圏における森林生態系サービス定量化の試み（大場真・村上正吾・王勤学：国環研）
- LandsatETM 画像を用いた矢作川流域圏における人工林管理情報の抽出（若林太一・島田沢彦：東農大、大場真・村上正吾・王勤学：国環研）

- 芦ヶ池周辺流域からの窒素流出に水田が及ぼす影響の評価（浪平 篤：農工研）
- 櫛田川下流の農業水路における魚類の生息状況とポテンシャル評価（皆川明子：農工研）
- 表面化学的濁水処理－自然界における粘土沈降のメカニズムを模倣して（大井節男：農工研）

- 伊勢湾流域における汽水湖（油ヶ淵）の特性と水質浄化機能（久岡夏樹・中藺孝裕：土木研）
- 豊川河口における二枚貝の生息環境とその保全（天野邦彦・小林草平・尾嶋百合香・中西哲：土木研）
- 豊川における瀬の河床環境と底生動物群集（小林草平、尾嶋百合香、中西哲、中田和義、天野邦彦：土木研）
- グラフ理論による両側回遊種ミゾレヌマエビの生息場所連続性評価（中田和義・中西哲・傳田正利・天野邦彦・小林草平・藤原正季：土木研）
- 豊川における流下有機物の炭素安定同位体比の流呈変化の要因について（赤松史一・小林草平・中田和義・中西哲・尾嶋百合香・天野邦彦：土木研）

- 伊勢湾流域におけるフラックス統合モデルの構築（佐藤圭輔・名大院）
- 砂河川付着藻類による生物一次生産と水質浄化サービス（戸田祐嗣・名大院）
- 流域の地質が土砂供給能に及ぼす影響の評価（田代喬・名大院）
- 砂河川における砂州景観評価手法の構築（尾花まき子・名大院）
- 砂州生態系における構造と物質循環機能について（安佛かおり・名大院）

* 発表内容に関しては、変更の可能性があります。ご了承ください。

所属機関名称：国総研（国土交通省国土技術政策総合研究所）、国環研（(独) 国立環境研究所）、東農大（東京農業大学）、水工研（(独) 水産工学研究所）、養殖研（(独) 養殖研究所）、農工研（(独) 農研機構農村工学研究所）、土木研（(独) 土木研究所）、名大院（名古屋大学大学院）